

にんていえぬびーおーほうじん しぜんさいせい

認定NPO法人自然再生センター

～「オゴノリング」でローカルSDGsを実践中！～



オゴノリ刈りの様子



畑にオゴノリを撒く様子

経緯

- 中海・宍道湖の淡水化事業が中止となったことで、大量にオゴノリ（藻）が発生し、漁協関係者を悩ませていた。化学肥料のなかった時代にオゴノリ（藻）を土壌改善材として活用していたことから、刈り取ったオゴノリを畑にすき込み、農産物を栽培することで、地域で循環型社会を構築できないかと考えた。

取組内容

- 中海や宍道湖をフィールドに、海藻の利活用で、地域や人を巻き込み、経済を含めた循環型社会（農業）への取組。
- 適量が残るように配慮しながら、伝統手法で増えすぎたオゴノリを刈り取る。
- オゴノリを土壌改良材として畑に撒き、作物を育て販売したり、ペレット肥料にしたもので農家さんが米を作る。
- 収穫された作物は、食の安全にこだわるパン・菓子店等で原料としても使用。

活動の効果

- オゴノリ採取は、漁師さんを中心に地域学生や体験希望者によって伝統手法により行う。また、刈り取ったオゴノリを土壌改良剤として漉き込んだ畑で野菜を栽培。苗付けや収穫などは、市民に広く募集をかけ、自分が蒔いた種や苗の発育を学習しながら、収穫物は美味しく安心な食物として食し、SDGsを実体感できる。
- 誰もが参加できる取組みは、地域住民や学生を巻き込み、年々輪が広がっている。また環境教育の面から、循環型農業、食の安心を考えるよい機会となっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

自然再生センターは海藻を利活用し、人・モノ・お金を循環させた市民参加の通称「オゴノリング」の実施で、SDGsへの意識変化を調査すると同時に、企業や研究者による中海の浚渫窪地の環境修復事業による環境変化の調査・研究もしています。

住所・電話番号・各種SNS等

住所：松江市天神町127 電話番号：0852-21-4882

ひらい さとし
平井 聡士

～ご縁をつなぎ、新たな島根の特産品を開発！～



東京でPOPUP販売会を開催



島根の特産品が集う「島根県物産館」での販売



経緯

- 島根県には魅力的な資源が多い一方、常に持ち歩き島根を感じられるような特産品が少ない事に着目。県が誇る「しまね和牛」の原皮を活用した革製品を特産品化することを考えた。
- この活動は、様々な人とのご縁をつなぎ、地域の活性化や畜産資源の有効活用に資するほか、地域を学ぶ教材としても活用できるとの思いからスタート。

取組内容

- 有効活用されていなかった「しまね和牛」原皮に注目し、皮革小物、野球グラブ等新たな地域特産品を開発・販売。
- 原皮の入手から製造販売までを人脈を活かして完遂。
- 島根県出身の若者との野球グラブづくりで協業。

活動の効果

- 「しまね和牛」皮革の製品化を実現
想いを共有することで多くの方とご縁がつながり、3年弱で販売に至った。この活動を通して「しまね和牛」のPRに貢献し、新たな可能性を発掘。和牛生産者からも応援いただける取組になった。
- 世代や地域を超えSNSで交流し「ふるさと島根へ貢献したい」想いを具現化
全国で活躍する元プロ野球選手など、多くの若者から製品化へのアドバイスを無償協力してもらって製品化。次世代へ「しまね和牛」の魅力と可能性が継承されている。

応募団体からのアピール・メッセージ

令和4年、和牛のオリンピックで肉質日本一を獲得した「しまね和牛」。製品紹介の際には、その生産過程も含め説明することを意識しています。また、「地ビール」のように、「地レザー」として地域の特産品開発へ波及していけるのではないかと考えています。

住所・電話番号・SNS等

推薦者：島根県農林水産部畜産課 電話番号：0852-22-6022

はしもとしょうてんかぶしきがいしゃ

みち えき

みすみ

橋本商店株式会社 道の駅 ゆうひパーク三隅

～石見地域の地産地消品の専門販売 道の駅～



道の駅 ゆうひパーク三隅からの景観



イベントの様子

経緯

- 山陰道の完成による交通量の減少やコロナ禍による売上減少により前経営者(第3セクター)が撤退。浜田市の指定管理業務として事業を引き継いだ。
- 経営を維持継続するため、地域の農海産物を販売できる場所として地域活性化を図る取組を進めている。

取組内容

- この道の駅を訪れることが目的地となるよう、石見地域の特産・民芸品を取り揃え、展示販売により地域の活性化を図る。
- 絶景日本海の海岸線を列車が走り抜ける景観は、撮り鉄ファンには魅力的な場所となっており、夕日とともにインスタ映えする施設として生まれ変わった。
- 島根ならではの産品を地産地消品としてPRするほか、フードコートでは一部の商品を調理加工し提供している。

活動の効果

- 道の駅では、国道の情報提供に加え、地域の伝統芸能や観光名所の紹介のほか、地域と密着したイベントを季節ごとに開催することで来館者は増加している。
- 「日本一POPアートな道の駅」と題し、海岸線を走る列車撮影ができることや島根県のキャラクター「しまねっこ」のモニュメントや多くの壁画など、道の駅全体をリニューアルしたことで、老若男女を問わず思い思いに記念撮影が楽しめる場所となり、地域特産品等の販売も合わせ、地域や道の駅の活性化につながっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

日本海の海岸線と鉄道が同時に望める景観はこの道の駅の持つ強みであり、この景観とPOPアートを活かしながら特徴ある道の駅に変化させることを継続し、「せっかく島根に来たなら、この道の駅に寄らねばね」と言われるようチャレンジを続けます。

住所・電話番号・SNS等

住所: 浜田市三隅町折居220-1 ホームページ: <https://www.michi-no-eki.jp/stations/views/19531>

ゆうげんがいしゃ おかむらこうむてん

有限会社 岡村工務店

～中山間地域に女性の力で新しい風を吹かせる！～



地域の方との笑顔創成



栽培作業の地元中学校支援学級との連携活動

経 緯

- 浜田市旭町丸原地区は、高齢者の居場所や雇用口がわずかな中山間地域にあり。特に高齢女性が活躍できる場づくりのため活動を開始した。
- きくらげの菌床栽培、販売を切り口として、女性の雇用創出や居場所づくりにより地域活性化を目指すこととした。

取組内容

- きくらげを用いた自社ブランドを立ち上げ、他産地との差別化を図っている。
- 地元の中学校と共同できくらげのオリジナルキャラクターを商標登録したほか、売上げの一部を動物愛護団体への寄付活動に取り組んでいる。
- 自社生産のきくらげを地元学校給食に提供するほか、ふるさと納税返礼品として提供している。

活動の効果

- 地域の高齢者、在宅主婦、夏休みの高校生のバイト先など、様々な年齢層の雇用機会を設けたことで世代間の交流が生まれ、地域社会の交流に寄与できた。
- 約9割を輸入に頼っているきくらげを自社生産し、学校給食へ提供することで地産地消に繋がったほか、地元中学校の支援学級生徒を作業体験として受入れ、食育活動にも貢献している。

応募団体からのアピール・メッセージ

先代社長の「周りの人が喜ぶことをやることで自分たちも幸せになる」との想いを引継ぎ、きくらげの栽培からスタートした「居場所」「コミュニティ」の創出を、今後も様々な形で幅広く地域に根付く取組にチャレンジし、次世代に継承したい。

住 所 ・ 電 話 番 号 ・ S N S 等

住所: 浜田市旭町丸原116-1 電話番号: 0855-45-0033 ホームページ: <https://nekono-mimi.com>

かぶしきがいしゃ

えん むそうてい

株式会社オリーブ園・夢創庭

～ しあわせの雫 出雲産オリーブオイル ～



オリーブ園での収穫の様子



収穫前のオリーブの実とオリーブオイル商品

経緯

- 出雲市内はブドウ栽培が盛んな地域だが、高齢化や後継者不足が進行している。
- ブドウ園の廃園や休耕地が年々増加傾向にあるため、観光農園や地域貢献も視野にオリーブ栽培の取組を始めた。

取組内容

- 平成26年に廃園・休耕地の再利用を目的にオリーブを92本植栽。島根県の気候は栽培に適さないため試行錯誤しながら取組む。
- 令和5年時点、栽培は4.5ha、2,100本まで拡大し、オリーブの実を収穫。
- 収穫したオリーブを自社で搾油・加工まで行い、地域の特産品を目指す。

活動の効果

- オリーブ栽培は島根県では難しいと思われていたが、令和元年から本格的に収穫し、令和3年にはオリーブの実を約1,200kgの収穫し、自社での搾油までに至った。
- オリーブ収穫後は、24時間以内に自社工場で搾油して、酸価値(0.12mg/g)の低い良質なエキストラバージンオイルを生産することができている。
- 地域の特産品とするため、令和4年に出雲推奨商品「おいしい出雲」に認定登録された。今後、収穫量を増やし、加工食品・美容分野の商品開発に取組む。

応募団体からのアピール・メッセージ

曇りや雨の日が多く、オリーブの栽培には不向きな土地で、実際に実が取れるか心配されたり、収穫量も少なくオリーブオイルの商品価格も高額で手軽な商品になっていないが、ブランディングを行い、出雲市の特産品として認めらるよう取組みたい。

住所・電話番号・SNS等

住所：出雲市神西沖町1687-11 電話番号：0853-27-9868

奨励賞

く た み

じっしゅうえんうんえいいんかい

久多美ふれあい実習園運営委員会

りんごが繋ぐ～物を作る・土に親しむ喜び～



加工したジャムにふるさと自慢シールを張り付ける様子



りんごの収穫作業

経 緯

- 旧久多美小学校の所有する土地の活用を保護者・地域の代表者と協議。
- 久多美地区は農業が盛んで、柿以外知名度がなく、担い手の高齢化等の課題が顕在化。
- 子どもたちにりんご栽培を通じ、土に触れ、農産物を作る喜び、将来、地域農業の担い手に育てて欲しいとの思いで委員会設立し活動。

取組内容

- ◎平成11年:りんご120本植樹
- ◎平成13年:りんご初収穫
- ◎平成14年:りんご収穫祭開催、りんご音頭披露
- 《年間作業の主な流れ》
- 4月りんごの名札づくり
- 5月下旬 摘果作業(全校児童で実施)
- 6月下旬 袋がけ作業(4年生以上で実施)
- 8月下旬～ 収穫作業
- 1月中旬～2月下旬 枝の剪定
- 3月 枝拾い・追肥作業

活動の効果

- りんごを収穫するまでの一連の活動を通して、収穫の喜びを味わい、ふるさとのよさを体感するとともに、リンゴジャムの瓶への「ふるさとラベルの作成・貼り付け」や、授業公開日、地域の文化祭でのジャム販売を通して、子どもたちの達成感がより高まった。
- 様々な作業体験を通して、農業生産の喜びや苦労を経験することで、食料生産に対する意識を高めるとともに、保護者や地域の人々と一緒に様々な活動でふれあいを深めることによって、「ひと・もの」への感謝の意識を持つようになった。

応募団体からのアピール・メッセージ

りんご音頭の詩を全校児童から募集し、児童や父母・地域の意識を高め、りんご生産・加工の取組に発展。また、福祉施設と連携したジャム加工は、6年生児童の意識を高め、自慢シール作成やりんご皮・芯を餌にするSDGsへの意識にもつながっている。

住 所 ・ 電 話 番 号 ・ S N S 等

住所: 出雲市東福町453 電話番号: 0853-63-2614

ちきゅうしょくどう

地球食堂サークル

～畑からはじまる隠岐海士町の島食文化の伝承～



地球食堂での学生と子ども達の調理・盛付風景

海士町「島食の寺子屋」で島食を習得する学生達

経緯

- 島根県の豊富な食材を用いて地域の食文化の魅力を発信するため「海士町の島食を用いた多文化共生プロジェクト」を立ち上げ。
- 島根県ならではの味を地域の子供たちやその家族、島根県在住の外国人や島根県を訪れる旅行者などにも味わってもらい、地域活性化に結び付けることを目的に取組んだ。

取組内容

- 地球食堂では、地域の子供たちが調理・喫食・片付け・遊びを通し、地域の方々、海外・県外の来訪者と、年齢、国籍を問わず交流できる場を提供している。
- 活動1: 隠岐郡海士町の島食を用いた食文化伝承
- 活動2: 地元食材の栽培・収穫体験
- 活動3: 活動内容をSNSで世界に発信

活動の効果

- サークル学生が、島の食文化と日本料理の技術習得により島の食文化の伝承。
- サークル学生及び地域住民が地元野菜を栽培・収穫し、献立作製から調理、喫食までを一元化して地球食堂利用者と共に活動し、地元食材の魅力を伝承。
- SNSの発信により、地域の子ども達や外国人に「和食の魅力」を伝え、さらには地球食堂の活動を通して地元食材への認識を深め、食への感謝の気持ちを育んだ。

応募団体からのアピール・メッセージ

地球食堂は、利用者の子ども達・外国人が安全を考慮しながら調理・喫食・片付けまでの一連の食行動を一緒に行なうことで、地元食材や苦手な食べ物などの食体験が、将来、地域の食文化を担う子ども達の豊かな食生活形成に役立つと願う。

住所・電話番号・SNS等

住所: 出雲市 電話番号: 0853-25-9138 メールアドレス: e-arai@u-shimane.ac.jp

とびすかんきょうほぜんきょうぎかい

鳶巣環境保全協議会

～ 楽しく環境整備 ～



ブルーベリージャムを文化祭で販売



地区の子供たちが楽しく収穫

経緯

- 地域資源の保全管理のため平成19年度に地区組織として鳶巣環境保全協議会を設立。
- 市長との意見交換で、地域の特産となる農産物栽培を考えてほしいとの提案があり、地域で協議し、遊休農地を活用したブルーベリー栽培を開始。

取組内容

- 遊休農地を活用したブルーベリー栽培。
- 地区内の小学校や障害福祉施設の子供と連携・交流した幅広い収穫体験を提供。
- 小学生や福祉施設の体験学習としてブルーベリージャム作りも始まり、地域のイベントで販売、また、令和4年からはボランティア活動として中学生も収穫に参加。

活動の効果

- ブルーベリー栽培の取組は、遊休農地の解消に効果を上げ、また、小学校と福祉施設との子供同士の交流が始まり、一方で、ブルーベリージャム作りも始まり、地域の女性が中心となって加工が始まり、女性活躍の場も生まれている。
- ブルーベリー栽培から地域の交流が始まり、また、子供たちが授業で考えたブルーベリージャムが実際の商品となり自ら食すことで、子供たちが将来の職業への関心も高まってきている。

応募団体からのアピール・メッセージ

ブルーベリー栽培の取組、収穫体験などが記憶に残り、子供たちの成長後も会話でブルーベリーの活動が出る、地区を忘れてないのだと感じています。今後も、鳶巣地区の楽しい思い出、記憶を残す体験を子供たちと一緒に取組みたいです。

住所・電話番号・SNS等

住所: 出雲市東林木町890-4 電話番号: 0853-21-0174

にちはくのうこうかぶしきがいしゃ

日伯農工株式会社

～過疎化地域を六次産業で救う？ブラジル人～



幼稚園の皆さんと芋ほり交流会



キャッサバフライ販売中



日本初！キャッサバ芋焼酎の仕込み

経緯

- 前年度まで不安定な雇用環境にあるブラジル人の雇用の場をつくるため、「イズモ・アグロブラジル」として活動してきた。
- 農産物販売のみでは雇用人数が頭打ちになることから、過疎化が進む地区にある空き物件(工場)を譲り受け、日伯農工株式会社を設立。6次産業化を目指す。

取組内容

- 大学、NPO法人主催のフォーラム、地域の町おこしイベントなどにおいて、活動内容やブラジルの文化を紹介。
- 幼稚園児を招いての芋掘り交流、養護学校高等部生徒による工場清掃など、地域住民との交流を図っている。
- キャッサバフライを商品化し地元スーパーで販売するほか、地元酒蔵の協力を得て日本初のキャッサバ焼酎を製造。

活動の効果

- 私たちの活動が知られるようになり、活動内容やブラジルの文化を紹介する機会が増えてきている。
- 日本ではなじみがなかったキャッサバ芋などの農産物も認知度が上がり、焼酎をはじめとした商品開発や商談につながっている。
- これまでの活動を通じて地域での交流が盛んになってきており、今後も新たな地域での交流を広げていきたい。

応募団体からのアピール・メッセージ

運営資金の確保等の課題はあるが、国籍の違いから気持ちがバラバラにならないように、互いの文化や価値観を尊重しながら、会社事業を通じて多文化共生社会の実現に貢献していきたい。

住所・電話番号・SNS等

出雲市渡橋町203-5 電話番号:070-8431-4605

やびかんきょうほぜんくみあい

矢尾環境保全組合

～矢尾の未来に向けて地域づくり～



整備された花のプランター



千年ハスを植えた池

経緯

- 平成19年度に「農地・水保全管理支払交付金」の導入を契機に組合を組織して、水路及び農道の補修を計画的に実施。
- 環境保全や動物愛護の観点で新たな方向として、遊休地を活用したビオトープの設置、除草効果も踏まえたヤギの放牧場などを整備し、植栽も併せた癒し空間を設置することとした。

取組内容

- 約60年前に整備された用水路を補修計画に基づき補修を実施。
- 農道の「わだち」の補修作業。
- 川の法面の草刈りを6月と7月に実施。
- 出雲全日本大学駅伝が行われる国道沿線にコスモス・ひまわりを植栽、休耕田にはビオトープを設置し、池に「大賀ハス」を植栽、池の周囲には芝生を植栽、マリゴールド等の多くの花をプランターで管理。

活動の効果

- 用水路の補修は累計約930m以上となり、水稻の生育管理が改善。
- ヤギ牧場は周辺の除草効果が期待され、また、地域の子供たちとヤギとの触れ合いが「癒し」効果の発揮を期待され、除草・野菜クズなど廃棄の受皿になっている。
- 大学駅伝コース沿線のビオトープやコスモス植栽は景観改善に効果を発揮している。

応募団体からのアピール・メッセージ

1年間を通して「花」のある公園を目指すとともに、その技術を習得したい。癒し空間を充実するために、ヤギも増頭するとともに、取り組みを継続していくために、互助組織として休耕田の管理を受託するシステムを構築していく。

住所・電話番号・SNS等

住所：出雲市矢尾町576 電話番号：0853-23-4764